

# Wモデルのすすめ

---

野村 卓司



# 今日の進め方

---

1. 自己紹介
2. テーマ提出の動機、経緯
3. Wモデル
4. 事例
5. コミュニケーションの重要性
6. 組織への効果
7. 私の考えるWモデルの未来形

これからも



## 自己紹介

---

FAのパッケージ製品の品質保証に従事しています。

### 品質保証について現場から発信

JaSST09東京「テストによらない品質保証をめざして」

JaSST10東京「テストにおける勘の考察」

JaSST11東京「使い勝手も品質のうち」

SQiP09「表計算ソフトによるモデル検査の試行」



## テーマ提出の動機、経緯

---

事例でお話ししますが、**Wモデル**の成果がでた頃、異動で上司と協力会社を含め開発メンバーが変わりました。

無視されることが多くなりました。

今年、1ヶ月程体調をくずして、休みました。

業界では、**Wモデル**の知名度は低い。

何もしなければ、変わらない。

やれることをやろう。



## テーマ提出の動機、経緯

---

品質保証に関するブログを作りました。<http://ameblo.jp/nomuratakuji>

自分のできる範囲で、**Wモデル**の経験を伝えよう。

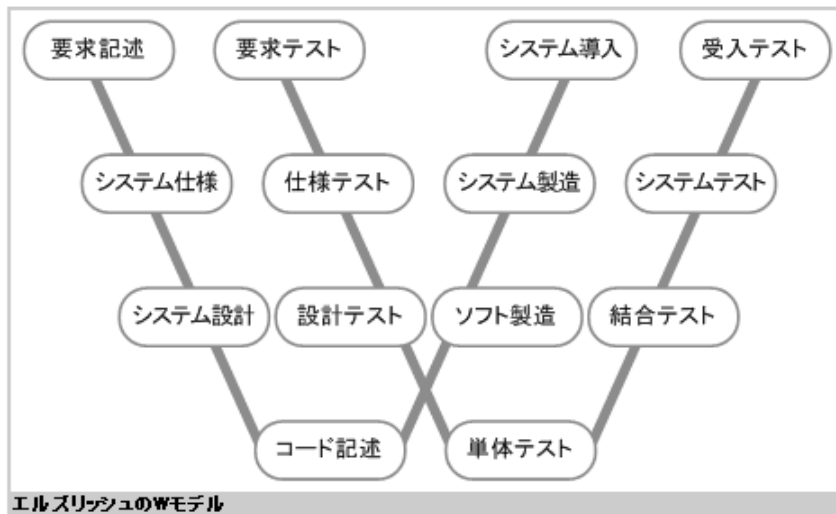
**SWEST**で「**Wモデル**はなぜ普及しないか」というセッションを担当させて頂きました。

今回、機会を頂いたことに感謝します。

**WOCS**にも投稿しました。

**JaSST東海**、**JaSST東京**にもチャレンジします。

# Wモデル



Wモデルは、英国の大手調査会社オーバムのアナリストであるポール・エルズリッシュ (Paul Herzlich) が、1993年にロンドンで開催されたEuroSTARカンファレンスで行ったプレゼンテーション「The Politics of Testing」で語ったものが最初とされる。日本では、ドイツ・ブレーメン州立経済工科大学 (Hochschule Bremen) のアンドレアス・シュピルナー (Dr. Andreas Spillner) のモデルが注目を集め、2000年代半ばごろから研究や実践の取り組みが盛んになった。

@IT情報マネジメント「Wモデル」

<http://www.atmarkit.co.jp/aig/04biz/wmodel.html>より引用



## 事例(成功事例)

---

「テストによらない品質保証をめざして」から事例を引用します。

当初の目的は、品証のレビューとテストまでの手待ちの解消です。品証がテスト設計を行い、設計者の作業を軽減する為に導入しました。

品証は、テスト設計を行うと同時に、指摘を仕様書に朱書きしました。



## 事例

成果は下記の通りでした。

製品Bの頃は、設計者は「品証の為に指摘に回答している」という意識でした。

		検出件数	推定バグ件数	検出件数と推定の差	全てのバグが除去されている確率	推定在バグ件数	検出件数と推定の差	全てのバグが除去されている確率
改善前	製品A	87	87.4	0.4	66.8	87.0	0.0	95.9
改善後	製品B	89	89.1	0.1	89.1	89.0	0.0	89.0
	製品C	103	103.6	0.6	53.1	103.3	0.3	74.7
	製品D	126	127.2	1.2	35.2	126.0	0.0	99.8
	製品E	33	33.0	0.0	100.0	33.0	0.0	100.0
	製品F	80	80.0	0.0	98.3	80.0	0.0	100.0

製品Fの頃は、設計者は「今までのレビューに比べ、仕様を理解してテストに臨んでいる」という認識になりました。





## 事例(失敗事例)

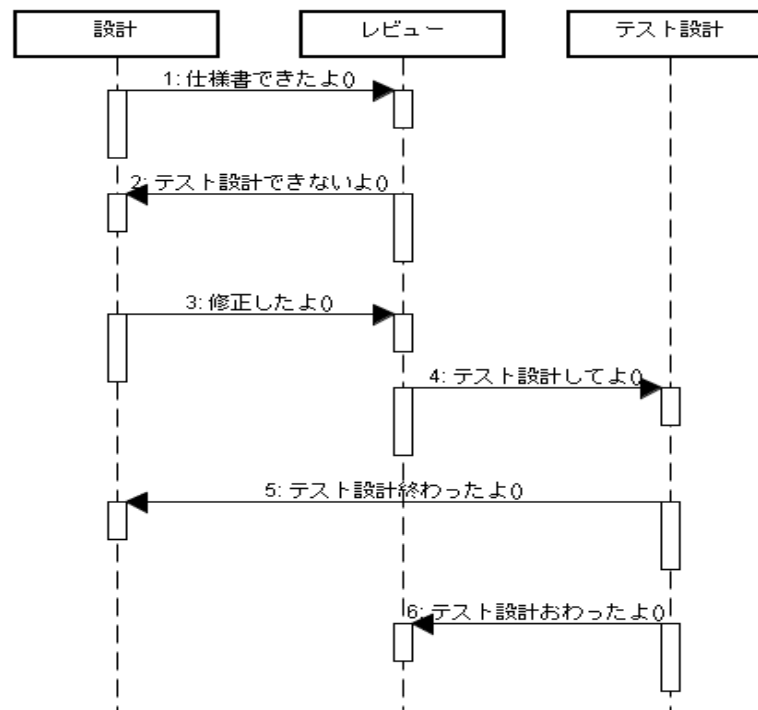
---

テーマ提出の動機であげたケースです。

次にコミュニケーションの点から事例を分析します。

# コミュニケーションの重要性

指摘に回答しない  
↓  
テスト設計に進めない



コピー&ペースト  
でテスト設計  
↓  
設計にフィード  
バックがない

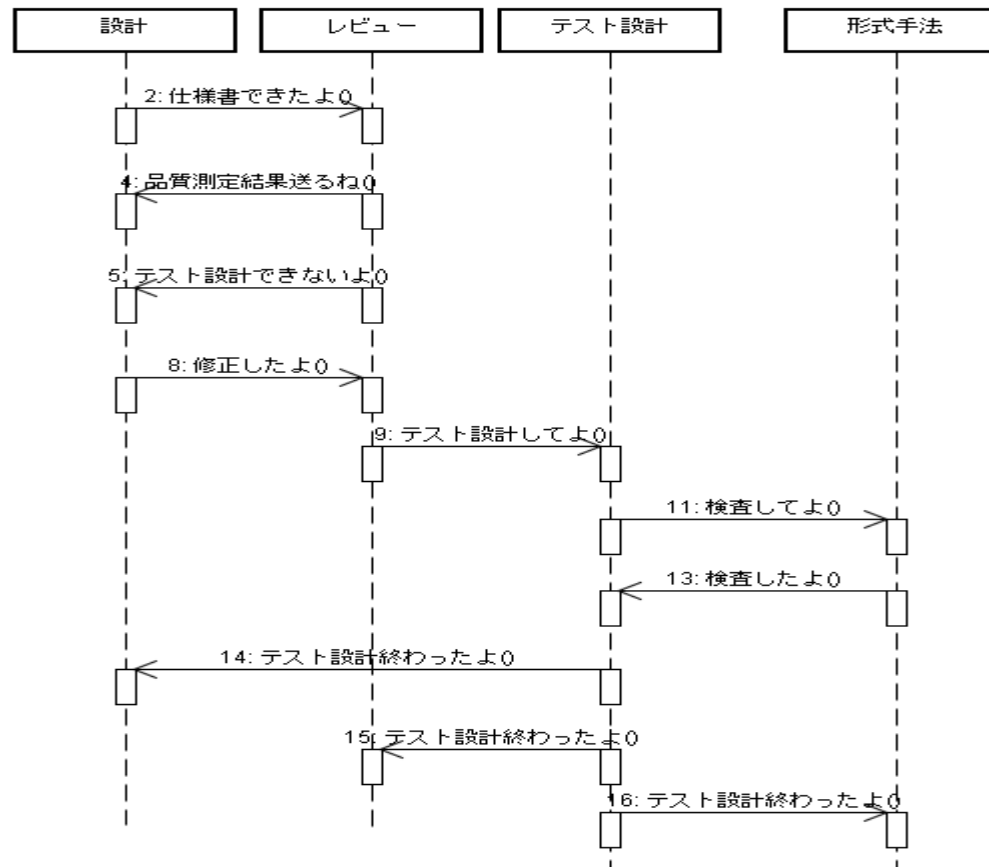


## 組織への効果

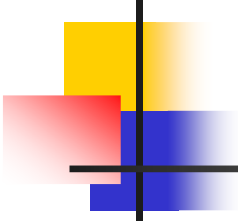
---

- ①品証の生産上流工程からの参加
- ②工程短縮
- ③設計と品証の信頼関係の確立
- ④テスト項目の標準化、テスト設計の専門化

# 私の考えるWモデルの未来形



リアルタイムな品質保証活動



## これからも

---

一人でも多くの方にWモデルを知って頂けるように活動してゆきたい。